

かんきょう 4. その他の環境問題

◆ダイオキシン類

ダイオキシン類は、ごみなどを燃やすと自然にできてしまう物質であり、量は少ないのですが、空気や水、土の中にも含まれています。

ダイオキシン類は、人に有害な物質なので、ダイオキシン類が多く出ないように、燃やし方のきまりを作っています。

佐賀県では、毎年、空気、海や川の水、土にダイオキシン類が多く含まれていないか測定していますが、これまで特に問題になったことはありません。

◆身のまわりの化学物質

わたしたちが日ごろ使っている製品は、いろいろな化学物質を使って作られています。化学物質は、わたしたちの生活を豊かにしてくれますが、使い方をまちがえると、人や動植物に悪い影響を与えてしまうおそれがあります。

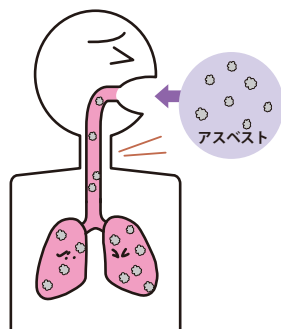
自動車の排気ガス、洗剤、殺虫剤など、身のまわりにはたくさんの化学物質がありますが、排気ガスの少ない低公害車を利用したり、洗剤などはラベルの表示などをよく読み、正しい使い方をしたりして、化学物質と上手に付き合っていきましょう。



◆アスベスト (石綿)

アスベストとは、綿のように細い繊維からできた鉱物で、燃えにくく強いことから、昔は建物の材料として使われていました。しかし、アスベストが空気中に広がると、呼吸により体内に入り、将来「がん」になるおそれがあります。

建物の解体や修理をするときに、アスベストが外に漏れないようにする決まりをつくっています。しかし、地震や火事で壊れた建物は、アスベストが漏れているかもしれません。壊れた建物や工事現場には近づかないようにしましょう。



◆騒音

わたしたちの身の回りにはさまざまな音があります。そのうち、わたしたちの眠りを妨げたり、会話ができなくなったりするような「好ましくない音」を「騒音」といいます。

騒音の原因となるものには、工場での機械の運転、くい打ちなどの建設作業、自動車の走行、スピーカーの使用、カラオケ、エアコンの室外機などがあります。

工場や建設作業で発生する騒音を小さくするため、地域を決めて工場や建設作業の騒音の大きさについてのきまりをつくっています。

用語の解説

●デシベル

音の大きさを表す単位です。



120 デシベル	飛行機のエンジンの近く
100 デシベル	電車が通るときのガード下
80 デシベル	地下鉄の車内
60 デシベル	静かな乗用車 ふつうの会話
40 デシベル	市内の深夜 図書館 静かな住宅地
20 デシベル	木の葉のすれ合う音 置き時計の秒針

しんどう 振動

工場での機械の運転、くい打ちなどの建設作業、自動車や鉄道車両の走行などで地面がゆれることを「振動」といいます。

振動がひどいときは、ふすまや障子がガタガタする、壁にヒビが入る、瓦がずれるなどの被害が出ることがあります。

工場や建設作業で発生する振動を小さくするため、地域を決めて、工場や建設作業の振動の大きさについてのきまりをつくっています。



あくしゅう 悪臭

動物の糞や尿のにおい、食べ物の腐ったにおいのような「好ましくないにおい」を「悪臭」といいます。

工場などからの悪臭をなくすため、地域を決めて、アンモニアなどの悪臭の原因となる物質を出さないようなきまりをつくっています。



私たちの普段の生活の中で、環境を守るためにできることを考えてみましょう。

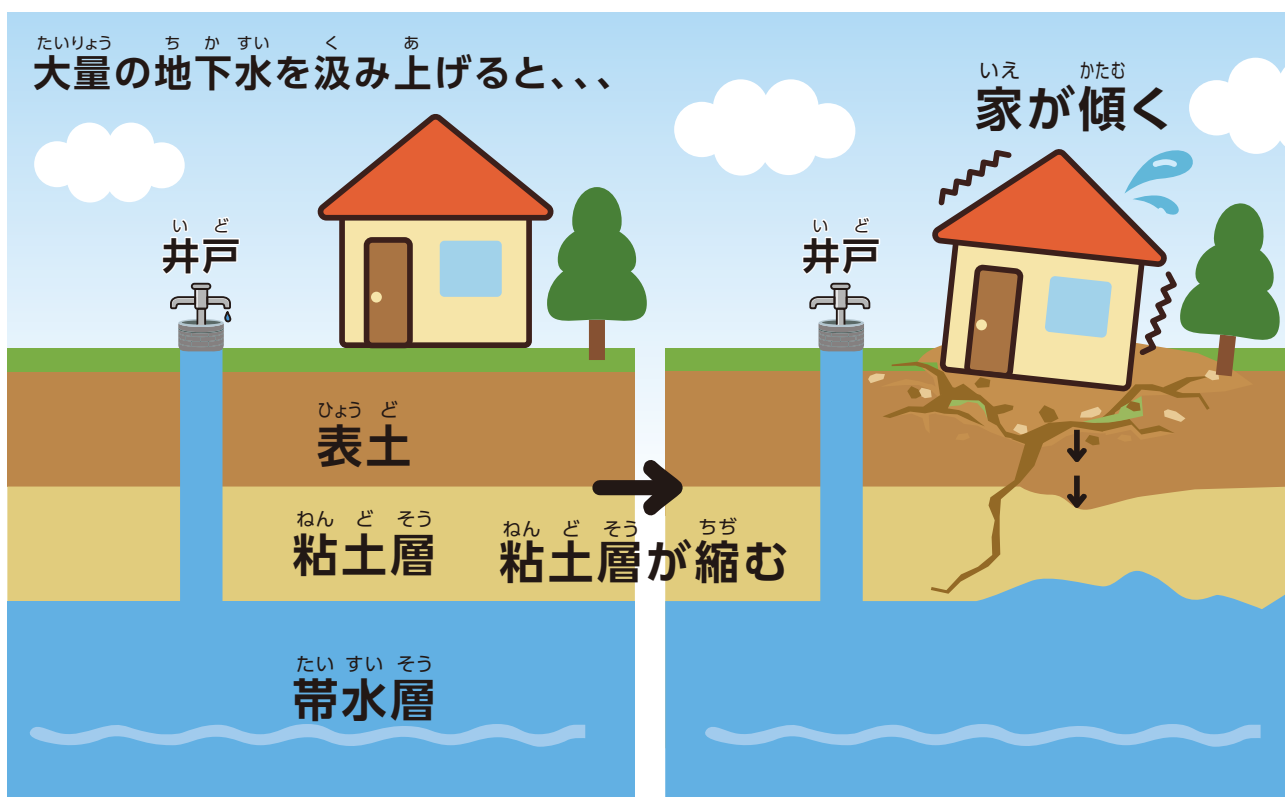


◆地盤沈下

わたしたちは、地面の上に建物^{たてもの}を建てたり、道路を作ったりして、生活しています。この地面が沈^{しず}むと建物^{たてもの}が傾^{かたむ}いたり、道路にでこぼこができたり、川や海の水面より水路^{みく}が低くなって、流れが悪くなったりします。

このようにいろいろな場所で地面が沈^{しず}むことを「地盤沈下^{じばんちんか}」といいます。特に有明海沿岸の佐賀平野は、有明粘土層^{ねんどそう}と呼ばれる水分を多く含んだ粘土層^{ねんどそう}が厚く広がっており、この層の水分が地下水^{たいすい}を汲みあげすぎることによって減^へり、層が縮^{ちぢ}むことで地面が沈^{しず}んできました（図1）。

図1 地盤沈下が発生する仕組み



◆佐賀県での地盤沈下の影響

佐賀県では、昭和32年ごろから地盤沈下^{じばんちんか}が起きたと考えられます。その中でも、昭和35年、昭和48年、平成6年には年間10cm以上も地面が沈^{しず}んだ年がありました。最近^{しんか}は、地下水の汲みあげが減り、沈下も少なくなっています。

図2 ^{じばんちんか}地盤沈下の^{えいきょう}影響



写真提供者：軟弱地盤研究所 三浦 哲彦先生

図2の写真は、佐賀県で起きた^{じばんちんか}地盤沈下の^{えいきょう}影響で道路が沈下した様子です。
写真の通り^{じばんちんか}地盤沈下がおこると、私たちの暮らしに大きな^{えいきょう}影響が出ることになります。

◆^{じばんちんか}地盤沈下をなくすために

^{じばんちんか}地盤沈下をなくすためには、^く汲み上げる地下水の^{りょう}量を減らしたり、川やダムからの水を使えるようにしたり対策することが大切です。日々の生活においても水を大事に使いましょう。

わたしたちに
できること

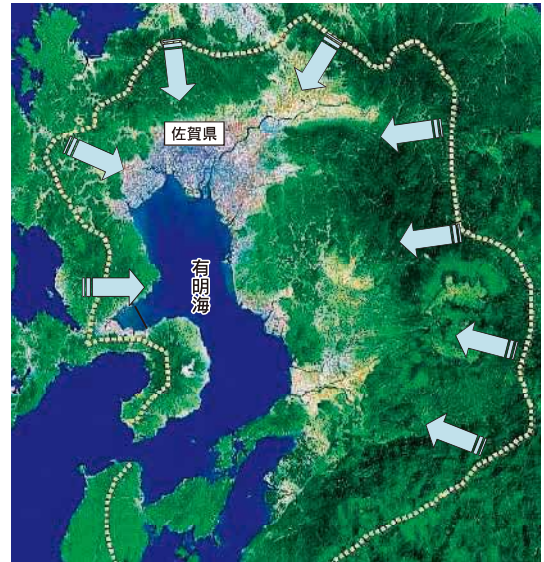
●水を大事に使いましょう

◆有明海のごみ問題

有明海へのごみの流入

有明海^{えんがん}沿岸には、大雨の後に、様々な川から、流木やヨシクズ、また、わたしたちの生活に密接^{みつせつ}に関係するビニール袋^{ぶくろ}やペットボトル、空き缶^{あかん}などのごみ^{ごみ}が大量に流れ込みます。

流木やヨシクズ以外のごみは、わたしたちの生活や社会活動に伴い、道路や水路などに捨てられたものが川などから有明海へ流れ込んでいるものと考えられます。



降った雨が有明海に流れ込む範囲



有明海沿岸に漂着したごみ

ごみの影響

これらのごみは、沿岸を漂流し、漁船の航行の支障となったり、漁船のプロペラにからまることで、漁船の故障の原因となったりすることもあります。また、ノリ養殖などの漁業活動にも大きな支障となっているばかりでなく、海岸や干潟に漂着して、ムツゴロウやワラスボ、アサリをはじめとする貝類やシチメンソウなど、様々な生物の生息の場を悪化させたり、広大で美しい干潟の景観を損ねたりするなど、大きな影響を及ぼしています。

2017年7月九州北部豪雨の影響で有明海に流れ着いたごみ

ごみが漂着した有明海(鹿島海岸) ごみを取り除いた後の有明海



干潟にすむムツゴロウやワラスボ、貝類、シチメンソウなど様々な生き物の生活環境や美しい景観をごみが損ねています。



子どもたちが環境問題を身近なこととして考え、有明海を大切にしてほしいという思いで作った動画の一場面です。

有明海再生PR動画

検索

ごみを減らす取り組み

わたしたちの貴重な財産である有明海の環境をまもるためには、有明海に流れ込むごみを少なくする取り組みが必要です。

はじめよう！

大切な海を守るためにあなたができること。



川や水路の清掃活動



有明海沿岸に漂着したごみの回収

わたしたちに できること

- 川や海はもちろん、道路などにもごみを捨てない。
- 道路や公園など、身のまわりでゴミを見つけたらひろう。
- 川や海、道路などの清掃活動に参加する。
- 外に出かけたときは、ごみは持ち帰る。